足立健康友の会
かばら支部ニュース
第６１号
2013年8月15日
☎: 3605-5594
http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/
mail:kabarashibu@yahoo.co.jp

あじさい寺と雨に濡れる日本庭園

本土寺・柴又・・・歩こう会

花を見るのが好きで、おいしいものを食べることが大好きな私にピッタリの企画だったので、喜んで今回の「歩こう会」（6月26日）に参加させていただきました。

駅から通称「あじさい寺」の本土寺に向かう途中、出店の産直野菜、地元の漬け物に目や口も行きそうでしたが、ぐっとこらえて目的地へ。まだ、時間が早かったおかげ?で人影も少なく、いろいろな色や形の美しいあじさいがしっとりと見えました。その見事なあじさいの前で記念写真を一枚。

駅までの帰りは皆さん念願の産直野菜（トマトや赤かぶーーー）。お試しの完熟トマトにかぶりついて、口々に「本物の味ね」と言いながら、柴又見学もあるのにどっさり買い込み。

金町駅から次の目的地柴又へ。あいにく雨が降って来ましたが、あれが「矢切の渡しね」などとおしゃべりしながら江戸川堤を歩いて帝釈天に到着。

帝釈天には有名な木彫り彫刻や庭園があります。何度も来ていながら見たことがないという人もいて、拝観料を払って専用の渡り廊下に入りました。

お堂をめぐる壁一面にすばらしい透かし彫りの彫刻が多数あって感心。その先には、美しい日本庭園があり、廊下をめぐりながら、雨に濡れる池や木々に見とれました。

待ちに待ったランチタイムでは柴又の寅さんの舞台にもなった「とらや」に入り、天ぷらそばなどをみんなで食べました。

この日のちょっと前、6月23日に友の会会員でもある大島よしえさんが、見事に都議再選を果たしたこともあって、大いに食べてビールを乾杯しておしゃべりして盛り上がりました。

雨には降られましたが楽しい「歩こう会」でした。

報告　大谷田　早乙女　真佐子

職員紹介

看護師長　和久井栄子さん

蒲原診療所の新看護師長として、この7月に赴任した和久井栄子さんを紹介いたします。

和久井さんが健和会に入職したのは1984年4月で、みさと健和病院開院（1983年11月）の翌年でした。開院間もない病院に入職したきっかけは、おばさんが当時、四ツ木診療所に勤務していて、そのお誘いがあったからでした。

みさと健和病院に入職して最初の配属は2階西病棟、その後、3階西病棟の勤務の後、1997年に柳原病院に異動になりました。柳原病院から柳原診療所に異動になったのが4年前で、今回の異動により健和会の病院と診療所を4ヶ所、回ったことになります。

故郷は新潟県十日町市で、地元に希望する就職口がなく、高校卒業と共に看護婦の資格を取るため神奈川県に引っ越して来ました。十日町市は松之山温泉、棚田、ブナの美人林などと共に豪雪地帯で知られていますが、和久井さんは、その様な自然がいっぱいで緑にあふれる故郷が好きと言います。

春先などよく山菜を取りに行き、山の恵みを楽しみました。好きな時間の過ごし方は「猫と遊ぶこと」と「読書」です。

「蒲原診療所に異動になり、これから患者さんの顔と名前を覚えるのに時間がかかると思います。そのような不慣れでご迷惑をおかけすることもあると思いますが、友の会員のみなさんにも色々、アドバイスして頂き、早くこの地域になじめるよう努力し行きたいと思っております」と抱負を語ってくれました。

担当　嶺岸　宏

弘前とねぷた祭り

ヤーヤドー　掛け声勇ましく

八月初旬田舎へ行ってきました。青森県弘前市です。夫と車で良く帰ります。夫の実家も弘前市なので二人とものんびりできます。秋田県に入ると急にトンネルが多くなり八幡平を通り青森に入るとまさに「青い森」の静かな風景を進みます。そしてあちこちに温泉の看板が。これも楽しみです。

弘前の夫の実家は日本一の桜祭り(勿論私はそう思っています)で有名な弘前城から歩いて十分程。桜の見頃はゴールデンウイーク。弘前の桜は庭師さんの手入れが行き届いているので、花芽が多くコンモリ咲いていてよその桜とは比べてみれば一目瞭然。とても豊かです。そしてソメイヨシノが終りに近づく頃には、様々なしだれ桜が本丸を中心に見事な花をつけ、もうウットリ。晴れていればドデンと目の前に雪を残した岩木山が裾野まで美しく眺められます。そしてちょうど時期を同じくして全国津軽三味線大会が行われ、弘前公園の一角にある市民会館近くでは出演者たちが練習している風景が見られます。幼いころからよく耳にしている三味線の音色はなぜか胸がザワザワとかきたてられます。

さて、今回、弘前に着いてひと休みしてから自転車で近所のスーパーへ。良いお天気なのに風がとてもさわやかで良い気持ちです。あちこちの庭にはあさがお・ひまわり・ラベンダーと一緒にまだあじさいやバラそしてコスモスも咲いていて、一気に花の季節の到来といったところ。ルンルンです。そして時はまさにねぷた祭り。弘前では八月一日から七日まで、出台順番を決めたり、運行コースを変更したりして夕方四時から待機OK、子供ねぷたや幼稚園出展のねぷたは小さな子どもも綱を引くので眠くなる前に戻るため、早くから順番を待つのです。

弘前ねぷたは扇ねぷたが主流です。表が三国志や水滸伝を題材にした武者絵で裏は中央に美人画を配した絵師の個性の趣の強い見送り絵です。私は昔からこの見送絵を見るのが楽しみです。お囃子は横笛・太鼓・鉦。ねぷた祭りが近づくと町内のあちこちから横笛の音が流れます。そして掛け声は、「ヤーヤドー」と小さい子から大人まで大きな声を張り上げます。

ねぷたに灯す火は昔はローソクでしたが今は殆んど見られなくなりました。扇ねぷたの両端には綱がついていて見物客の前でクルクル回すパフォーマンスをします。若い子達はとびっきりのおしゃれをして「見られる興奮」を味わいます。弘前は昨年豪雪に見舞われ、ねぷたの骨組みを保存しているねぷた小屋が雪のためつぶれて壊れてしまい再生出来ないのではと心配された町会も、沢山の方の支援とねぷたにかける地元の熱意で無事参加できたねぷたが何台もあるそうで、今年は八十一台出ました。そして、この熱いねぷた祭りが終わると秋風が吹き実りの季節を迎え田んぼや畑仕事に、普段通りの日常にまた精を出すのです。

報告　坂井よう子

原水禁派遣財政活動

バザー・カレーの炊き出し

核兵器は一刻も早く世界から無くそう。広島・長崎に落とされた、原爆と戦争の記憶を忘れずに次代に引き継ごう。かばら診療所グループが毎年行ってきた、原水禁大会に参加者を送り出すための募金活動、バザーなどと共に、職員・友の会対象の昼食炊き出しの取り組みが行われました。

バザーは診療所入口にお店を開き、七月二七日から夜間診療の時間帯も含めて一週間行いました。品物は友の会員さんが、沢山の小物など提供してくれました。バックや洗濯せっけんは人気が有り、コップや湯呑は数が多いため、家族が少ない、などの理由であまり売れません。しかしバザーの意味を説明すると、快くお釣りをカンパしてくれたり、売れないだろうと思っていたものが売れたり、患者さんたちと会話が楽しく、この期間中は三万四千円の売り上げになりました。

昼食バザーは三回行いました。友の会が二回、カレーライスを作りました。平均四〇食前後の売り上げで、前日の買い出しから準備が始まり、朝から料理に入ります。ベテラン主婦が腕を競って造るカレーの味は格別です。歯科職員が担当した時はガバオでした。材料が良く、美味しいと大好評でした。これから二回、デイサービスと医科のそれぞれの職員が担当して行う予定です。みんなで楽しみにしています。

今回は友の会員のみなさんから個人カンパが多く集まりました。合計すると十万円を超え、本当に皆様の心が伝り、運動として手応えがありました。八月二十二日、六時から、かばらデイサービス(診療所の三階)にて参加報告会を開きます。ぜひご参加下さい。

今年の財政活動に対する皆様からのご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。

担当　田中　英人